

確定申告は感謝をする日

静岡市立城内中学校

2年 中司杏実

年が明け、今年も確定申告の時期がやってきた。

これは、私自身が、皆さんが納めてくださった大切な税金を医療費という形を通して、日々恩恵を受けていることに改めて感謝する機会でもある。

私が本来支払うべき医療費は高額である。病院の窓口では、個々に応じた限度額まで支払いをすればよいとされているが、その他家族の医療費等も含め、一年間の医療費が一定額を超えると、確定申告をすることで支払うべき税金の額が少なくなるという「医療費控除」という制度であると両親が教えてくれた。

その確定申告の資料を作成するため、そして何より医療費負担の補助のありがたさを自ら実感するため、毎年新年を迎えると病院で支払った医療費の領収書を日付順にし、一覧表にまとめるという作業を両親に任されている。小学校低学年の頃は、領収書を順番に並べるお手伝いしかできなかったが、高学年になってからは、パソコンを使っての入力作業を任されるようになった。

私の病気が判明したのは五才の時。身長が伸びなくなったことに両親が疑問を持ち、地元の総合病院を受診したことがきっかけで、脳腫瘍にかかっていることがわかった。さらに、十万人に一人という珍しい症例であったため、専門的な治療を受けるためには、電車とバスを乗り継いで片道三時間をかけて関東の病院へ受診しなければならなかった。

さらに、九才の時再発してしまい、二度にわたる手術と長期の入院生活を余儀なくされた。私は、入院の際支払う医療費が本当は大変高額であったことを、後に病院の領収書を通して知った。病院の運営等に対する税金の関わりは、入院した当時は小学生だったため詳しくはわからなかったが、中学生になった今、そのありがたさを実感している。

その後、後遺症が残り、毎日自ら「成長ホルモン」を注射器に入れてお腹に打つことになり、薬の力を借りて身長を伸ばしている。

毎日多くの投薬をせねばならず不便を感じたり、つらいと思う日もあるが、おかげさまで元気に学校に通うことができている。

外国では成長ホルモンの注射は健康保険で受けられない国も多いため、驚くような高額な医療費を支払う必要があり、治療を断念せざるを得ないこともあると聞いた。私がこうして恩恵を受けられるのも、日本では全ての国民が公的医療保険制度に加入することとされている「国民皆保険制度」のおかげであり、さらに皆さんが納めてくださっている税金のおかげであるのだと日々感謝せずにはいられない。

大人になったら一生懸命働いて納税をし、社会に恩返しをしたい。そのために感謝を忘れることなく勉強し、夢に向かって頑張りたいと思っている。再発することなく健康でいられることを願いながら。